

第2学年国語科学習指導案

日 時 平成17年9月8日(木) 5校時

場 所 教室(2年2組)

児 童 2年2組 男16名 女13名 計29名

指導者 小笠原 恭子

- 1 単元名 友だちに分かるように 話そう
教材名 「あったらいいな、こんなもの」

2 単元設定の理由

(1) 児童観

子ども達はこれまでに、2年上「ともさんはどこかな」で、大事なことを選び、順序よくはっきり話したり、大事なことを落とさないように最後まで注意して聞いたりする学習をしてきた。

日常的な活動としては、帰りの会でのスピーチや毎日の家庭音読に取り組んでいる。また、学年で「ミニ表現集会」を開き学級の枠を取り払い交流の場を持っている。全校の表現集会に向けても子ども達と一緒に発表の分担を決めて練習するなど、意識的に機会を捉えて話したり聞いたりする活動を行ってきた。

これらの学習や活動を通して子ども達は、相手に分かるように話すためには、話す内容を選びはっきり話すことが大事であることが分かってきた。また、大事なことを落とさずに聞くために、人の話を集中して最後まで聞こうという意識がだんだん育ってきている。

しかし、聞き手のことを十分に意識して、聞き手に分かりやすいように順序を工夫したり、話題に沿って友だちと上手に話し合ったりする経験はまだ不十分である。グループでの話し合いで、友達の考えを聞き入れず、自分の考えを主張し続ける子がいることから上手な話し合いができていないことが分かる。

事前テストの結果を見ても、よく聞き、話題に沿って質問する力が足りないことや自分が伝えたい事柄について詳しく、順序を考えて話す力がまだ不十分であることが分かった。

(2) 教材観

本教材は、「あったらいいな」という道具を一人ひとりが自由に想像し、それをもとに話す内容や順序を二人で話し合っ決めて、発表するという教材である。あったらいいものについて、話す順序を考えながら聞き手に分かりやすいように話し方を工夫して話す力や話題に沿って話す力を身につけることをねらいとしている。

よって、聞き手の立場に立って分かりやすい順序を考えるための指導を工夫したり、二人組で一つのものを作り上げていくための対話の仕方を指導したりすることにより、話す順序を考えて聞き手に分かるように話す力や話題に沿って話し合う力を身につけることができると考える。

以上のことから、児童に話す順序を考えながら聞き手に分かるように話す力や話題に沿って話し合う力を育てるには、有効な教材である。

(3) 指導観

話し言葉による表現活動への関心・意欲・態度を高め、指導と評価の一体化を図り、本単元のねらいに迫るために、以下のことを指導の手立てとして位置づけた。

関心を喚起させるために

- ・導入で教師自身が自分の考え出した道具を発表することによって、自分も「あったらいいな」という道具を考えたいという思いを持たせる。

- ・二人組で考え出した道具をクラスみんなで発表し合うことを知らせ、友達に「そんな道具があったらいいな」と思われる発表にしたいという目的意識・相手意識を持たせる。

意欲を持続させるために

- ・二人組での話し合いの仕方を理解させるために、話題に沿った話し合いをしているVTRを見せる。

- ・話す内容をまとめる際に、話す順序を考えやすいようにカードを工夫する。

- ・よりよい話し方を身につけさせるために、視聴覚機器を用いて自分たちの話し方を客観的に振り返らせる。

- ・4人グループでの練習の際には、活動ごとにめあてを決めて取り組ませることによって、一人ひとりが何に気をつけて練習すればいいのか、はっきりとしためあてを持って練習に臨ませる。

態度を育成させるために

- ・お互いの発表のよいところを見つけて賞状を贈り合ったり，教師がよさを認めて褒めたりすることにより，達成感・成就感を持たせる。

指導と評価の一体化を図るために

- ・評価規準や振り返りカードをもとに計画的に個々を見取り，次の学習への手立てを明らかにし，指導する。

3 単元の指導目標

- ・話す順序を考えながら，聞き手に分かるように話すことができる。

4 単元の評価規準（B）

ア 国語への 関心・意 欲・態度	関心	「あったらいいな」と思う道具を考え出し発表し合うことに興味を持ち，楽しく発表会をしようとしている。	
	意欲	話題に沿って進んで話し合いに参加しようとしたり，順序を考えながら話そうとしたりしている。	
	態度	お互いの発表のよいところを見つけ，感想にまとめようとしている。	
イ 話す・聞 く能力	構成要素	①	自分たちが考え出した道具について，クラスみんなに伝えたいことを考えている。
		②	聞き手に分かるように，話す順序を考えながら話している。
		③	大事なことを落とさずに聞き，分からないことは質問している。
		④	二人組で，話題に沿って話し合っている。
ウ 言語について の知識・理解・技能		「あったらいいもの」の名前や理由がよく伝わるように，はっきり話している。	

5 単元の指導計画（話す・聞く 15時間）

時間	主な学習活動	具体的評価規準（B）と【評価方法】	指導の手立て	
一次	第1時	ア - 「あったらいいな」と思う道具を考え出し発表し合うことに興味を持ち，楽しく発表しようとしている。 【発言】 【アイデアメモの記述の把握】 【振り返りカードの把握】	<ul style="list-style-type: none"> ・ドラえもんの道具を想起させ，楽しい雰囲気作りをする。 ・教師の道具を見せることで，発表したいという思いを持たせる。 ・便利な道具のアイデアをメモできるシートを用意し，自由に書かせる。 ・学習の計画を立てさせることで発表会の目的意識・相手意識をしっかりと持たせる。 	
	第2時			「あったらいいな」と思うものをたくさん考える。
	第3時			どんな発表会をするのか知り，学習の計画を立てる。
二次	第4時	対話の仕方を学習する。	ア - 話題に沿って話し合いに参加しようとしている。 【話し合いの様子観察】 【振り返りカードの把握】	<ul style="list-style-type: none"> ・「話し合い名人になろう」を活用し，話し合いで大事なことと目的を確かめる。 ・うまく話し合っている二人組のVTRを活用し，意欲を高める。

	第5時	二人一組で、どんなものがあつたらいいか話し合い、アイデアシートにまとめる。	イ - 二人組で話題に沿って話し合っている。 【話し合いの様子を観察】 【アイデアシートの記述の把握】 【振り返りカードの把握】	・二人で話し合いながら、一枚のアイデアメモのシートを完成させる。
	第6時	話す内容を決め、短冊カードにまとめる。	イ - 自分たちが考え出した道具について、クラスみんなに伝えたいことを短冊カードに書いている。 【短冊カードの記述の把握】	・伝える内容を項目ごとに短冊カードに書かせる。
	第7時	発表に必要な資料を作る。	【話し合いの様子を観察】 【振り返りカードの把握】	・絵や模型を必要に応じて作らせる。
三次	第8時	話す順序について話し合う。 (本時)	イ - 二人組で話題に沿って話し合っている。 【話し合いの様子を観察】 【短冊カードの並べ方の把握】 【振り返りカードの把握】	・「話し合い名人」を活用し、話し合いで大事なことを確認する。
	第9時	二人組で話し合って決めた順序を確かめながら練習する。	イ - 話す順序を意識して間違えずに話している。 【練習の観察】【相互評価】 【振り返りカードの把握】	・話す順序を考えながら短冊カードの並べ方を吟味させる。 ・「お話しどうぞ」を活用し、話し方と大事なことを確かめる。
	第10時	VTRに撮った自分たちの発表を見たり聞いたりして、練習する。	ウ - 大きな声で、はっきり口をあけて話している。 【練習の観察】【相互評価】 【振り返りカードの把握】	・VTRを撮ることによって練習に緊張感を与え、自分の話し方を振り返らせる。
	第11時	四人グループで交代で発表の練習をする。		・相互評価カードを用意し、お互いにアドバイスさせる。
四次	第12時	発表会の準備をする。 (司会の練習や話し方聞き方の確認など)	ア - 発表し合うことに興味を持ち、楽しく発表会をしようとしている。 【発言】【練習の観察】 【振り返りカードの把握】	・発表会の進め方を掲示し、練習させる。
	第13・14時	発表会を開き、よかったところを賞状に書く。	イ - 大事なことは落とさずに聞き、分からないことは質問している。 【発言】【発表会の様子を観察】 【振り返りカードの把握】 ウ - 大きな声で、はっきり口をあけて話している。 【相互評価】	・CDを使って、発表後の質疑応答や感想交流の仕方を知らせる。 ・「聞きどうぞ」を活用し、聞き方と大事なことを確かめる。
	第15時	賞状を贈り合い、発表会の感想をまとめる。	【発表会の様子を観察】 【振り返りカードの把握】 ア - お互いの発表のよいところを見つけ、感想にまとめようとしている。 【感想の記述】【相互評価】 【振り返りカードの把握】	・相互評価できるシートを使い、メモしながら聞かせる。 ・友達のよいところを見つけ賞状を贈ることで、達成感・成就感を持たせる。

6 本時の指導

(1) ねらい

聞き手に分かるように話す順序を話し合うことができる。

(2) 展開

段階	学習内容と学習活動	・指導上の工夫と評価 , <教材・教具>
導入 5分	<p>1 学習課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">ふたりで話し合っ、聞いている人にわかりやすいじゅんじょをきめよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・目的意識：「その道具はいいなあ」と思われるような発表にする。 ・相手意識：クラスのみんな 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちが考えた道具のことを聞いている人に分かりやすく伝えるために短冊カードの順序を決める話し合いをすることを押さえる。
展開 33分	<p>2 どんな順序で発表するといいかについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「道具の名前」は、初めに話す。 ・「したいこと」は、最後に話す。 <p>3 二人で話す順序について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どういう順序で並べたかを発表する。 ・分かりやすい順序が見直してまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師のカードを使って考えさせる。 <短冊カード> ・第4時で学習した上手な話し合いの仕方を確認する。 <紙版書> ・「どんなものか」カードや「つかいかた」カード、「こんなことができる」カードの順序を二人で話し合っ、決めて並べさせる。 <短冊カード> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0; text-align: center;">評価イ-</div> <ul style="list-style-type: none"> ・聞き手に分かりやすい発表にするためにカードをどうい順序で並べたのか、その理由も発表させる。 ・並べた順序で話させ、分かりやすかったか見直させる。
まとめ 7分	<p>4 学習を振り返る。</p> <p>5 次時の学習内容を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・聞いている人に分かりやすい順序を決めることができたか、順序を決める話し合いがうまくいったかを自己評価させる。 <振り返りカード> ・話す内容を二人で分担し、発表の練習をすることを伝え、意欲を持たせる。

(3) 評価に応じた支援

【観点】	【具体的評価規準】	【評価に応じた支援】
イ -	A二人組で話題に沿って、理由も考えながら話し合っている。 B二人組で話題に沿って話し合っている。	A優れた点を認め、称賛する。 C台紙に番号を書き、そこにどの短冊カードを並べるか考えさせる。

(4) 板書計画

あつたらいいな こんなもの

ふたりで話し合つて、聞いている人にわかりやすいじゅんじよをきめよう。

「あつたらいいなと思つもの」(名前)カード

「どんなものか」カード

「つかいかた」カード

「こんなことができる」カード

「こんなことをしたい」カード

話し合い

名前は、はじめに。したいことは、さいごに。
ほかのカードのじゅんじよを考える。
聞く人がわかりやすいじゅんじよになったか考える。

話し合い名人

- ・ なかよく話し合つ。
- ・ わだいにそつて話し合つ。
- ・ あいての話をしっかり聞く。
- ・ あいてにわかるように話す。